

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

町田市立相原小学校

5年1組 29名

指導者 三浦 幸太

1. 単元名 「^{マイ}米プロジェクト」

2. 単元目標

米について調べたり、米作りの体験を協働して取り組んだりする活動を通して、米を生産する人々の苦
労や願いを理解し、自分たちにできることについて考える。また、日本の食文化を支える一員として行動
したり生活したりできるようにする。

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・米に関わる生産者、消費者、環境等 のつながりを理解している。 ・情報を比較・分類・関連付けるなど、 探求の過程に応じた技能を身に付 けている。	自分の考えの理由や根拠を明確にし ながら他者と交流し、課題を追求し ている。	課題解決に向けて、意欲的に取り組 んだり他者と協力したりして活動し ている。

4. 単元について

(1) 単元設定の理由

- ① 米は昔から日本人の食生活に根付き、生活に関わりの深いものである。
- ② 米から歴史やこれからの未来、自然環境、生態系、生産、経済等、多様な角度から知識の獲得の可能性。
- ③ 地域の方々の協力を得ながら、体験的な学習ができる。

以上のことから、米を題材とすることで、児童が知識の獲得とともに主体的な学び合いに発展すると考え
た。

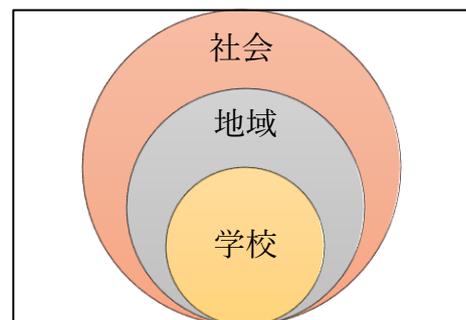
(2) 児童の実態

本学級の児童は、自分たちの知らないことや調べたいことについて、文献やインターネットを活用し、
意欲的に取り組んでいる。5月に米についてのマインドマップを使った意識調査を行い、自分たちの調べ
たいことを整理して学習を進め、6・7月は田植え・水やりの体験学習をした。現時点では、マインドマッ
プから特に調べたい項目についてグループで分かれ、整理・分析したことを模造紙にまとめ、発表を行っ
た。9月には稲刈り、10月に脱穀等の体験を通じて、米作りの過程や苦労等についてまとめていく。

5. 校内研究との関わり

(1) 高学年部会として研究テーマの捉え方

今年度の校内研究のテーマである「地域との関わりを通し
て共に学びあい高め合う児童の育成～地域の特色を生かした
相っ子学習の充実～」を受けて、高学年では学校の自然や人、
もの・ことに関わり、同心円状に児童の興味・関心の範囲を広
げていき、学習の対象を広げていくことを通して、「探求的な
学習を進めていくなかで、地域の関わりや体験活動を生かし



ながらよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく児童の姿」を目指す。

(2) 単元における研究テーマとのかかわり

- ・米のよさや大切さ、米作りに関わる人々の苦労や願いに気付く姿。
- ・食文化や食生活に関心をもって、自分にできることを考える姿。

(3) 研究テーマに迫るための具体的な手立て

①指導計画の工夫

- ・相原の地域から人・自然・もの（こと）を学ぶ指導計画
- ・教科横断的に学びをデザインするカリキュラムマネジメント

②課題設定の焦点化

- ・児童が課題に気づき、学習計画や方法を決めていく学習の展開
- ・児童が学習したい内容を生かした課題設定

③振り返りの工夫

- ・学びの記録を視覚化し、達成感を味わわせる。
- ・視覚化した学習の記録から、学びの流れを次の学習に生かす。

(4) 研究授業の視点

- ・教師の問いかけや関わり方は、児童が探求課題に沿った思考をもつことができたり、話し合いを活性化させたりすることに活かされていたか。
- ・体験学習を通して、これからの自分たちに何ができるか考えをもつ学習が展開できていたか。

6. 指導計画（45時間）

過程	時間	学習活動
一次	5	<p>○お米について考えよう（課題①）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米について知っていることを学級全体で共有する。 <p>○お米についてまとめよう（課題②）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米について知っていることをもとにマインドマップにまとめ、お米への関心を高める。 ・これからの学習に向けた課題を設定する。
二次	4	<p>○田植えの体験をしよう（体験①）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バケツ稲を育てる ・代かき・田植えをする。 ・体験した感想を共有する。
三次	10	<p>○知りたいことについて調べよう（課題③）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米作り、米の歴史、米を使った料理、世界のお米など、自分が知りたいことについて文献やインターネットを使って調べる。 ・調べたことを模造紙にまとめたり、友達に伝えたりする。
四次	2	<p>○稲刈り・天日干しの体験をする（体験②）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲刈り・天日干しをする。 ・体験した感想を共有する。
五次	2 (本時)	<p>○収穫した米を今後どうするのか考えよう（課題④）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のことについて自分の考えをまとめる。 ・今後について考えたことを全体で共有し、どのような活動をしていくのか話し合う。
六次	10	<p>○計画したことを実行するために必要なことを考えよう（課題⑤）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫祭に向けて計画し、必要な情報を文献やインターネット、インタビューを通して集める。 ・集めた情報を整理し、自分たちにできることを考え、計画を進めていく。

七次	4	○脱穀・もみすり・精米をする（体験③） ・脱穀・もみすり・精米をする。
八次	2	○収穫祭をしよう（体験④） ・計画したことを実行することができる。
九次	6	○米について学んだことを伝えよう（課題⑥） ・自分たちの体験したことや調べたことを振り返り、新聞にまとめる。 ・まとめたことを下級生に伝える。

※参考文献 「米づくり学習」農林水産省、埼玉県第5学年指導案、学習指導要領(総合的な学習の時間)

6. 本時の学習活動

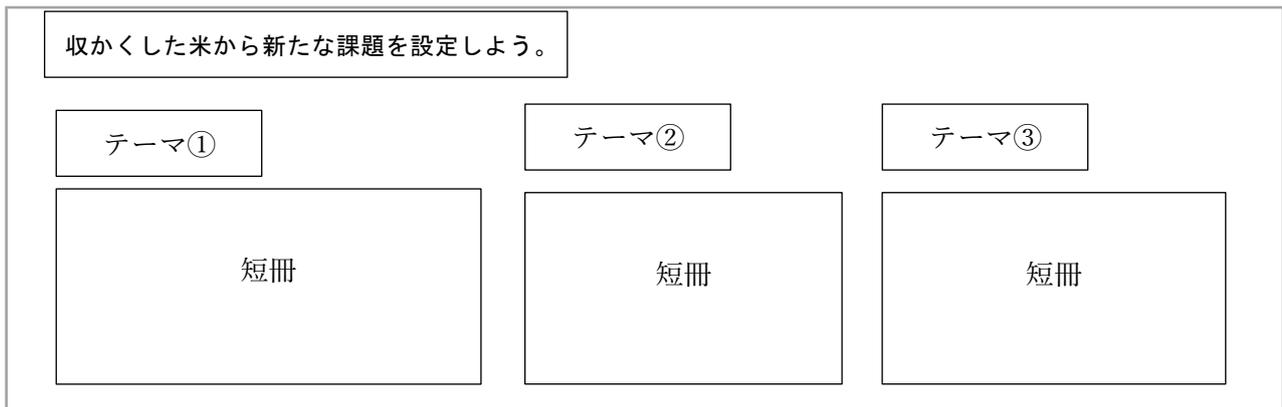
(1) 目標

収穫した米から新たな課題を設定し、課題解決について考えることができる。

(2) 展開（23時間目/45時間）

	・学習活動	△予想される児童の反応	◇留意点・支援 ☆評価
導入	1. 前時の活動を振り返る 本時のめあてを確認する 収かくした米から新たな課題を設定しよう。		◇前時までに、個人で課題を設定しておく
展開	2. 設定した課題を発表・話し合う ・短冊の作成 ・分類、整理 3. 設定した課題を解決するために必要なことについて話し合う	△ もちつき大会 →実際に経験がある。 △ 雀の対策 →収穫が少なかった。 △ 藁をどうするか →ゴミがでてしまう。	◇ 話し合いの大枠は、子供たちに想起させながらテーマ設定する。 ◇ 課題設定の根拠を明確にさせる。 ☆ 自分の考えの理由や根拠を明確にしながら他者と交流し、課題を追求している。(発言・ワークシート) ◇ 収穫した米について注目させる。
終末	4. 本時を振り返る 5. 次時にむけて		◇ 話し合った内容について再確認

(3) 板書計画



○成果と●課題

○学習のまとめとして子供たちの願いであった、「餅つき体験」をすることができた。

○年間指導計画を見直したことで、「米」の学習を1年間通して計画的に取り組むことができた。

○課題設定→体験→情報収集・分析のスパイラルを意識した学習活動をするで、自ら学習課題を設定する児童がいた。

●道具の準備など、児童主体で活動することができなかった。

●地域とのつながりがほとんどなかった。